



発行所
中日新聞本社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
電話名古屋052(201)8811
〒460 郵便局番 名古屋9-10番
© 中日新聞本社 1984

釉薬と着彩習得に熱

東南アジアの窯業技術者たち七人が多治見市美坂町二、市陶磁器意匠研究所(松岡利治所長)で進んだ日本の技術習得に熱を込めている。

東南アジアの国々の窯業技術者たち七人が多治見市美坂町二、市陶磁器意匠研究所(松岡利治所長)で進んだ日本の技術習得に熱を込めている。

国の外部団体である国際協力事業団が毎年、東南アジアの各種技術者を招いて行っている研修の一つ。七人はスリランカの窯業公社袖(ゆき)薬主任シリセナさん(28歳)をはじめバングラデシュ、ビルマ、インドネシア、フィリピン、タイ、トルコ七カ国の二十八歳―四十六歳の男女。製陶工場の技術者や大学で窯業科教員をしている人々だ。

一行は四月初めに来日。五月末まで同事業団の名古屋国際研修センター(名古屋市中区)で日本語の研修と窯業技



技術習得に熱を込める東南アジアがらの技術者たち―多治見市陶磁器意匠研究所で

術全般の講義を受けた後、今月からは意匠研究所で研修を始めた。研修所では九月六日まで、釉薬と着彩技術を中心に、土を調合する絵の具づくりから始まり、スクリーン印刷などの加飾技法

全般を一通り済ませます。技術者たちの集団とはいえず三カ月で広く奥深い全技法に精通するのは不可能。「日本人の窯業に対する考え方、熱意が伝われば成功と想う」と同研修センターの熊沢靖一指導員は話している。

一行は名古屋市内の同研修センター寮に宿泊。月曜日から金曜日までの週五日間、毎朝十時には意匠研究所に到着、午後四時までびっしり話まっした研修カリキュラムを真剣な表情でこなしている。

19/Temmuz/1984 tarihli CHUNICHI gazetesinde, "Tajimi, Seramik Tasarımı ve Teknoloji Merkezi'nde Yedi Seramik Mühendisi" başlıklı yazı sır ve dekorasyon konusunda ileri Japon teknolojisi üzerine çalışmalar yapan yedi seramikçiyi tanıtmakta, çalışma programları hakkında bilgi vermektedir.

Nagoya/International Training Center, eğitim grup başkanı S.Kumazava'nın sözleriyle yazı şöyle devam etmektedir:Japon seramikçiliğinin anlaşılması amacıyla yaptığımız çalışmalarda, sürenin çok kısıtlı olmasıyla birlikte, araştırmacıların gösterdikleri coşku ve etkili çalışma düzenlerini büyük bir başarı olarak kabul ediyoruz.